

コロナウイルス文献情報とコメント(拡散自由)

2023年1月4日

Nature:

新型コロナウイルスは、体内でどれくらい生き続けられるか：剖検データ

【松崎雑感】

Natureの論文紹介です。免疫システムの不調な感染者が活着している限り、ウイルスはずっと体の中で生存し続けるようです。しかも、肺以外の臓器に「住み着いた」ウイルスは、ヒトの免疫システムから攻撃を受けることなくおだやかに暮らしているようです。ウイルス、実におそろべしです。でも、ヒトは、ウイルスと細菌の「繁茂する中」で、細々と生きてきた生物ですから、ウイルスの存在の大きさに今頃気付いたかと、ウイルスに笑われそうです。

新型コロナウイルスは、体内でどれくらい生き続けられるか：剖検データ

Stein SR, Ramelli SC, Grazioli A, et al. **SARS-CoV-2 infection and persistence in the human body and brain at autopsy** [published online ahead of print, 2022 Dec 14]. *Nature*. 2022;10.1038/s41586-022-05542-y. doi:10.1038/s41586-022-05542-y

新型コロナウイルス（COVID-19）は急性期が終わっても長期間体内にとどまり、様々な臓器障害をもたらす。

しかし、呼吸器以外の臓器への感染状況と、ウイルス排除までの期間が明らかにされていない。

とりわけ中枢神経において不明である。われわれは新型コロナによる死亡者44名の剖検データを解析した。

うち11名では中枢神経検体を詳細に採取し、ウイルスの感染臓器、感染細胞種類を調査した。

感染から死亡まで最長7か月だった。

重症化して死亡した人々ほど、ウイルスが呼吸器および中枢神経など多くの臓器に増殖していた。

感染初期の剖検検体でもこの状態が見られた。

新型コロナウイルスのRNAは中枢神経など多くの臓器に検出され、1例では、感染から230日後でも検出された。

体内の諸臓器にウイルスが広く感染していたが、呼吸器以外のウイルスの感染した細胞には、炎症性変化やウイルス感染による病理的変化は見られなかった。

以上より、新型コロナウイルスが全身の臓器に感染し得ること、そして、体内で数か月にわたり存在し続けることが分かった。